

I 次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えよ。（配点 75）

アニメ（anime）は、海外でも別ジャンル

前節で筆者は、「アニメ」と「アニメーション」という二つの語を、意識的に使い分けていたことにお気づきだろうか。実はこの点が、つまりは「アニメ」と「アニメーション」とは別のものであるという認識が、日本のアニメのトクイセイ^aを理解するために重要である。

一般的な日本人にとって「アニメ」という語は、「アニメーション」の略語にすぎない。ただ、「アニメ」という表現は意外に古く、昭和三〇年代から一部の映画雑誌などで使われるようになった。

もっと大衆的な、例えば新聞などで「アニメ」が使われるようになったのは昭和五〇年代からで、それ以前に使われていた「漫画映画」や「テレビまんが」といった語に代わって「アニメ」が一般化したという流れである。そして、これらの場面で使われる「アニメ」は、「アニメーション（animation）」を略したもの、ということになる。

ところが近年、具体的には一九九〇年代以降になるが、海外、つまりは英語、フランス語、スペイン語などの記事で、「anime」なる単語が使われるようになった。

I、現地の言語にはすでに、animation（英語、フランス語）、animazione（イタリア語）など、それぞれアニメーションを示す単語がある。海外で「anime」という単語が使われているということは、それらの地域で、自国語のアニメーションとは使い分けられている、すなわち「アニメ」は「アニメーション」とは別のものであると認識されていることを示しているわけだ。これは、どういうことなのだろうか。

結論を言えば、「anime」とは、日本で制作されたアニメーション、より具体的には、テレビアニメや劇場公開作品など、日本で最もポピュラーに親しまれている日本製アニメーション作品群のことをとくに示している語である。

筆者の経験で言えば、カナダやアイルランドなどの英語圏でDVD販売店を訪問したときに確認できたのが、「animation」と「anime」の棚が別々に設置されていたことだ。日本でも同じだが、DVD販売店などでは、「コメディ」や「SF」などのジャンル別に棚が配置され、来店客が商品を選びやすいようになっている。そのジャンルのひとつとして、「animation」と「anime」とが設けられ、前者には、ディズニー作品や自国のアニメーションのDVDが置かれ、後者には、日本製のアニメDVDが占有的に置かれている。もともと、『ポケモン』は、「anime」と「family」の両方の棚に置かれていた。

アニメ特有のこだわり

いずれにしても、諸外国では、以上のようなケンギョウ^bでアニメとアニメーションとが区別されているわけだが、それでは、なぜこのように区別されるのか。それは言うまでもなく、諸外国にとって、自国のアニメーションにはない多くの要素が日本製アニメには含まれ、別ジャンルとしたほうがわかりやすく、日本語の「アニメ」をそのままローマ字表記した「anime」が「**甲**」として使われているということである。

そして、「諸外国にとって、自国のアニメーションにはない多くの要素」——これこそが本書のメインテーマとなるわけだが、ごく概括的にいえば、日本のアニメは、ア ことが特徴である。

それも、スタジオジブリ作品のように、単一の作品として幅広い世代に^oカンショウされる作品がある一方で、幼児向けの作品、小学生を中心とした世代向けの作品、中高生などヤングアダルト向けの作品、性描写などを含む成人向けの作品など、各世代向けの作品が、それぞれ制作されている。

この中でも、とくにヤングアダルト向けの作品が制作されていることが、日本のアニメを^dショウサヨウするもので、海外でファンを増加させる最大の要因として挙げられる。

つまり、例えば巨大ロボットが登場し、戦争や民族問題などを描写しながら、キャラクターの葛藤^かや成長、ときには恋愛模様なども盛り込まれた、日本のアニメには最もポピュラーな作品群がある。こういった作品に、思春期にある中高生・ヤングアダルト世代が感情移入しつつ、作品にのめり込むさまを経験的に記憶している日本人は、いまや多数派といつてもいいかもしれない。そして、海外の日本アニメファンは、同じような動機で、アニメに夢中になっているのである。

この点は、「anime」という語が外来語として英語圏やフランス語圏に広がった潜在的な要因として指摘できるかもしれない。

なぜかと言えば、海外の anime ファンたちの中でも、とくに熱心なファンは、彼らにとっては本家本元の、日本のアニメファンたちと「同じように」作品を受容し、楽しみたいという意思が強い。つまり、日本のファンと同じように、キャラクターたちに「萌え」、ストーリーにのめり込み、隠されたネタを見つけないかと考えながら見ているのである。

そうした前提が、実は、インターネット上で作品映像が違法アップロードされる大きな要因になっている。海外の anime ファンたちは、日本で放映された作品を一刻も早く、日本のファンからわざわざでも遅れをとらずに見たがっている。結果、日本で放映されたコンテンツ（映像）が、放映後一時間以内に、II 自国語の字幕までつけられてネット上に違法アップロードされるようなことになるのである。

^A そういう状況を目の当たりにすると、日本のファンたちがごく自然に使っている「アニメ」という語を、海外のファンが日本のファンと同じように「anime」という語を使いたいという発想につながったと考えることができるのではないか。

九〇年代以降、アニメーションに関する学術的な専門書であっても「anime」は使われるようになったが、その前提として、当初はコミュニティとしては小さなものだっただけに違いないが、anime を日本のファンたちと同じように受容したいと強く思うファンたちの存在があったはずである。

「アート・アニメーション」の輸入

ここで、もう一度、日本国内に話題を戻したい。

筆者は本節の冒頭で、日本では「アニメ」は「アニメーション」の略語にすぎず、我々日本人は、アニメもアニメーションも同じ意味で使ってきたと指摘した。しかしながら、もう少し事情を細かく検証すると、^B そう単純でもない。

一九七〇～八〇年代にかけて、海外、とくにカナダやフランス、そしてロシアやチェコなどの旧

東欧圏で制作された短編アニメーション、現在しばしば「アート・アニメーション」といわれる作品群が日本国内で紹介された。こうした作品群を好んで見ていたファンは、テレビアニメなどのポピュラーな作品を、「コマーシャリズム（商業主義）に走ったソザツな作品」といった調子で

イ

このころから、日本のファンたちの間でも、「アニメ」と「アニメーション」を、意識的に使い分ける傾向が出てきたのである。Ⅲ、「アニメーション」の中でも、日本の、とくに昭和三十八年の『鉄腕アトム』以降に量産されたテレビアニメなどの商業系作品群を「アニメ」と呼ぶ、という使い分けだ。

ここまで、「アニメーション」「アニメ」、そして「アート・アニメーション」という語を紹介したが、これらの語によって、明確にそれらの範疇を^{はんちゆう}テイギすることは困難、というよりも無意味で、あくまで概念として使い、かつ使い分けられるものという点には注意したい。別の言い方をすれば、「アニメとは」や「アート・アニメーションとは」と言えば、それらのファンにとつては、何のことを言っているのかがだいたい通じる、というものである。

したがって、それらの語では収まりきれない、ハウカツ^{かうかつ}しきれない作品群やシチュエーションもあり、そのことを嫌って、例えば「アート・アニメーション」という語はけっして使わないというファンや専門家も少なくない。

「アニメ」という語を生み出したのは、もちろん日本のアニメファンであり、その「アニメ」と「アニメーション」との違いを認識し、言葉として使い分け、概念の違いを認識する方向に進んだのも日本のファンだが、その流れとは直接のつながりはないにしても、気がつけば海外のファンたちも「anime」という語によって「animation」との違いを認識していたという点には、注目すべきである。^c

（津堅信之『日本のアニメは何がすごいのか』、祥伝社、2014年）

問 1 傍線部 a ～ g のカタカナを漢字に直せ。解答は解答用紙の所定欄に読みやすいはっきりした楷書体で書くこと。解答番号は 1 ～ 7。

a トクイセイ

1

b ゲンキヨウ

2

c カンシヨウ

3

d ショウチヨウ

4

e ソザツ

5

f テイギ

6

g ホウカツ

7

問 2 空欄 I ～ III に入る語として最も適当なものを、次の①～⑨のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同一番号は一度しか使えない。空欄 I の解答番号は 8、空欄 II の解答番号は 9、空欄 III の解答番号は 10。なお、空答しなければ加算しない。

- ① したがって ② きわめて ③ もちろん ④ なぜなら ⑤ つまり
⑥ しかも ⑦ ほとんど ⑧ なおさら ⑨ もし

問 3 空欄 甲 に入る語として最も適当なものを、次の①～⑨のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 新語 ② 自国語 ③ 翻訳語 ④ 外来語 ⑤ 学術語
⑥ 外国語 ⑦ 機能語 ⑧ 概念語 ⑨ 造語

問 4 空欄 ア に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 海外でも受容されている
- ② 視聴者が感情移入できる
- ③ 中高生を対象としている
- ④ 海外視聴者と共有できる
- ⑤ 諸外国よりも水準が高い
- ⑥ 視聴者の対象年齢が広い
- ⑦ 視聴者層を限定している
- ⑧ 海賊版がすぐに出まわる

問 5 空欄 イ に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 同調することが少なくなかった
- ② 受容することが多少でもあった
- ③ 賞賛することが少なくなかった
- ④ 批判することが少なくなかった
- ⑤ 夢中になることが全くなかった
- ⑥ 批評されることを恐れなかった
- ⑦ 嫌悪することが多くはなかった
- ⑧ 許容されることが多くなかった

問 6 傍線部 A 「そういう状況」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 日本のアニメを代表するヤングアダルト向けの作品が海外でも人気を博している背景に、かつての日本の中高生が果たした役割と同じく、海外の中高生が日本のアニメを宣伝する役割を担っていることがあるという状況。
- ② 日本のアニメファンがアニメのキャラクターたちに「萌え」、ストーリー展開に深い興味を示していることに対して、海外のアニメファンもこれに理解を示し、ネットや雑誌などあらゆる媒体を通して日本人とつながろうとする状況。
- ③ 日本でアニメが放映されると同時に、海外でも自国語の翻訳を付けてインターネット上に違法アップロードがなされていることは迷惑な行為であるが、その行為が海外アニメファンの拡大につながっているという状況。
- ④ 熱心な海外のアニメファンたちの中には、日本のアニメファンたちと「同じように」作品を受容したいと考える傾向を見て取ることができ、その意識にうまく取り入れることによって海賊版DVDが出回っているという状況。
- ⑤ 海外のアニメファンの中でも熱心な人たちからは、日本のファンと同様に日本アニメを受容して楽しみたいという意識がうかがい知ることができ、そうしたこともあって日本での放映後一時間以内でその内容が違法アップロードされてしまうという状況。
- ⑥ スタジオジブリ作品のように、幅広い世代を対象とした作品だけでなく、幼児向け・小学生向け・中高生向けなど各世代を対象とした作品が日本では制作されており、この「アニメ」の多様さが海外で受容され、賞賛されているという状況。

問 7 傍線部 B 「そう単純でもない」の理由として最も適当なものを、次の①～⑦のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 「アニメ」は「アニメーション」の略語ではあるが、実際には一九七〇年代の商業主義の影響を受けているものを我々は「アニメ」と呼んでおり、両語の使い分けを理解して使用することで、初めてテレビで放映されているアニメを深く理解することができるから。
- ② 一九八〇年頃の日本では「アニメ」・「アニメーション」・「アート・アニメーション」を使い分けていたが、アニメファンであつてもそれらを大まかにしか把握できていない現在の状況からすると、それらの語を厳密に使い分ける必要性が失われつつあるから。
- ③ 「アート・アニメーション」といわれる作品群に興味を持っていたファンは、テレビアニメなどの作品を、商業主義系の作品と理解しており、これに基づいて用語を使い分けることで感情的な論争を避けているから。
- ④ 「アニメ」と「アニメーション」とは別のものであるという認識を持たなければ、誰も日本のアニメの特徴を理解することはできないという事実を、海外のファンは日本人よりも明確に意識しているから。
- ⑤ 「アニメ」を日本人と同じように受容したいと考えている海外の anime ファンは、「アニメ」・「アニメーション」・「アート・アニメーション」の違いを理解し、使い分けているが、日本人はそれらの使い分けに無頓着であるから。
- ⑥ 「アニメ」は元々日本で作られた言葉であるが、海外における「アニメーション」や「アート・アニメーション」との関係を考えて場合、日本語では「アニメ」が何を指しているのかが明確でないから。
- ⑦ 一般的な日本人は「アニメ」と「アニメーション」を同義で使用しているが、日本のアニメファンは「アニメーション」の中に含まれるテレビアニメなどの商業系作品群を「アニメ」と意識的に呼び、両語を使い分ける大まかな傾向が見て取れるから。

問 8 傍線部 C 「注目すべきである」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 日本のアニメファンが「アニメ」と「アニメーション」の違いを明確に認識する方向で使い分けていたのと同様に、海外の anime ファンも、それらを異なった概念として認識しながら、使い分けをしているという点に注目できるということ。
- ② 海外の「anime」は、日本で制作されたテレビアニメや劇場公開作品などを一般的に指し、「animation」と区別しているが、一九九〇年代以降の日本でも、この区別にならった陳列をレンタルビデオ店で行っている点に注目できるということ。
- ③ 海外では「anime」と「animation」の違いを認識するようになったが、これは日本における「アニメ」と「アニメーション」の使い分けの理由とは異なるものの、結果的に日本の内外において二つの語の使い分けがなされているという点に注目できるということ。
- ④ 海外で「anime」とは、日本のヤングアダルトを中心に流行している作品群のことを指し、それらを日本人とリアルタイムで受容することが、カナダやフランスの anime ファンに限られた特徴として注目できるということ。
- ⑤ 日本のアニメファンが「アニメ」と「アニメーション」との語を、マスコミなどの影響から使い分けようとしていることに対して、海外の anime ファンは日本のアニメと自国のそれとの違いを明確に使い分け、説明することができるという点に注目できるということ。
- ⑥ 海外の anime ファンはリアルタイムで日本のアニメファンとつながりたいと考える傾向があるが、「アニメ」と「アニメーション」の使い分けについては英語圏にある国々と日本は別々の考えを持っているという点に注目できるということ。

問 9 本文の内容に合致するものを、次の①～⑧のうちから二つ選べ。ただし、完答しなければ加減しない。解答は解答番号 17 の二ヶ所にマークすること。

- ① 「アニメ (anime)」が「アニメーション (animation)」の略語であるという認識は日本と海外で共通しているが、海外でアニメという語が浸透するには時間がかかった一方で、日本ではマスメディアの影響もあり、すぐに一般世間の中に入り込み、さらに「テレビまんが」などの新語も生まれた。
- ② 語としての「anime」と「animation」とが使い分けされているという事実を、欧米でみることができるが、実際は「anime」が各国で使用されていた「animation」に取って代わっただけであり、この背景にヤングアダルト向けアニメの影響がある。
- ③ 「アニメ」は日本で最も親しまれている日本製アニメーション作品群のことであるが、これらの作品は海外のDVD販売店ではファミリーコーナーのみに置かれており、各世代において人気のあることがうかがえる。
- ④ 海外で anime ファンが増加している理由として、「諸外国にとって、自国のアニメーションにはない多くの要素」の一つであるヤングアダルト向けの作品が制作されていることと、日本人と類似した動機でアニメを楽しみたいと考える海外の若者たちの存在がある。
- ⑤ 一般的な海外の anime ファンは、日本のアニメファン・キャラクターに「萌え」、ストーリーにのめり込み、隠されたテーマを論じながら anime を見ており、このような前提がインターネット上での違法アップロードの行為を後押ししている。
- ⑥ 旧東欧圏などの海外で制作された「アート・アニメーション」のファンが、テレビ化された「アニメ」を商業主義的なものとして捉えるようになっていた頃から、日本のアニメファンたちは『鉄腕アトム』以降の「アニメーション」を「アニメ」と呼ぶようになった。
- ⑦ 「アニメーション」・「アニメ」・「アート・アニメーション」という語だけで日本のアニメをすべて覆い尽くすことは不可能であるために、アニメを規定し、分類することを止めようとする議論が日本で活発に行われるようになっていく。
- ⑧ 「アニメ」・「アニメーション」・「アート・アニメーション」の用語について、日本のアニメファンは概念としてそれらの違いを理解し、使い分けをしているのと同様に、海外でも日本とまったく同じ理由からそれらの語を使い分けしているという事実がある。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問い（問1～11）に答えよ。（配点 75）

リップマンは、二〇世紀半ばに活躍したアメリカの著名な政治評論家で、日本ではとくに『世論（パブリック・オピニオン）』（一九二二年）の著者としてよく知られています。彼はジャーナリストとしての経験を生かし執筆した『世論』のなかで、大衆社会における世論のもつ危うさと無責任に^aケイショウを鳴らしました。そして、第二次大戦後、そのような危うさを克服するための処方箋として『公共の哲学』（一九五五年）という本を出版しました。そこで彼は、ファシズムに勝利し、共産主義という名の全体主義に対抗しているはずの西洋の自由民主主義体制が、それを支える「公共民の道（civility）」を喪失したため危機に陥っていることを指摘し、その克服を公共哲学に託したのです。

リップマンの公共哲学によれば、自由民主主義が保障する私有財産権は、決して何人にも、土地と天然資源に対する独占的で専制的な所有権を与えるものではありません。究極の所有権は所有者ではなく、人類に、そして共同体としての人民にあります。そしてまた、言論の自由もそれ自体が目的なのではなく、真理を発見するという望みと意図からのみ、公共的な意義を獲得すると考えられなければなりません。さもないと、言論の自由は、^A詭弁、宣伝、甲、陳情、売込みなどのこつた返しにすぎなくなるからです。こうしてリップマンは、自由民主主義体制下の公共民の道としての公共哲学の復権をとねえました。

このリップマンの公共哲学は、大衆文化が生み出す危機に対処する当時の超一流のジャーナリスト兼政治評論家からの提案として、今日でも再読される価値をもっていますし、「メディアと公共性」という問題を考えるうえで、つねに立ち返られるべき古典ともいえるでしょう。けれども、この書自体は、プラトンのエリート主義的統治論をはじめ、ヘレニズム時代のストア派や中世ヨーロッパのトマス・アクィナスがとなえた古典的な自然法をベースにしていたためか、^乙ともすればな印象を人々に与え、その後あまりインパクトをもたないまま忘れ去られたように思えます。

これに対して、一九八〇年代に宗教社会学者のベラーとその仲間たちによって提唱された公共哲学は、やや白人中産階級に焦点を合わせすぎたきらいがありますが、それでもより前向きで^bザンジンな内容をもっています。彼らにとって、公共哲学とは決して超歴史的な理念を説いたり論じたりする学問ではありません。それはある特定の歴史的社会的状況のなかで、^B人々の価値意識や実践的行為にかかわる学問として理解されなければならないのです。アメリカ人である彼らが問題視するのは、一九三〇年代以降のニューディール政策がもたらした過度の個人主義化であり、それを支えるリベラリズムというイデオロギーや自己利益追求の正当化を核とする社会科学でした。

過度の個人主義化への批判は、リベラリズムが個人の権利主張を重んじるあまり、人間の社会的絆や連帯を軽視し、結果として社会や人間が荒廃することに対して向けられた批判です。そして彼らは、地域や教会などのコミュニティをベースとした人々の公共精神の^cソセイをとねえ、ひと口に「コミュニタリアニズム」と呼ばれる思想に区分けされることになるのですが、その際、彼らが、「個人の尊厳」が実現される場としてコミュニティをとらえていたことも忘れてはならないでしょう。

彼らが過度の個人主義に対置したのは、軍や政治や市場の力に押しつぶされずに人々が暮らせる「公共の場」としてのコミュニティであって、個人がマイボツ^dするような組織としての共同体ではありません。

ところで、ベラーらは名著『心の習慣』（一九八五年）の付録において、自己利益の追求にもっぱら焦点を合わせる社会科学への批判と対案として、「公共哲学としての社会科学」論をとらえた。これは、公共哲学が既存の学問体制を批判しそれに代わる新たな学問的ビジョンを呈示することをひとつの重要な使命・課題として掲げるという点で、画期的な宣言であつたように思えます。

ベラーらの診断によると、現在のアメリカの社会科学界を蝕んでいる「専門主義的な社会科学」観こそ、公共哲学という見地から批判されなければなりません。アメリカでは著しく発展した産業界の要請もあつて、一九世紀末を境に、社会科学が「モラル・フィロソフィ（道徳哲学）」の傘下から離れて専門科学化し、公共精神ではなく自己利益の追求を目的とするような人間行動が社会科学の主要な研究対象となる事態が生じました。そのような事態は、現在、大学の学部・学科体制の細分化や、専門化された同業者内部での競争や評価によって再生産されつづけているのです。しかしそのことによって、公共性についての思想が著しく貧困化し、社会全体をとらえる視野も失われました。

では、こうした診断にもとづき、ベラーらが出した処方箋はどのようなものであつたのでしょうか。ベラーたちがまず緊急の課題としたのは、専門化された社会研究の「統合」^dでした。

そもそも自然科学と違い、社会研究においては、社会のさまざまな要因が相関しあつているために分析対象となる変数が単一であることは稀^{まれ}で、しかも多くの場合、変数は社会全体のコンテクスト（文脈）に依存しています。それゆえ、どのような専門的な社会研究といえども、社会全体のコンテクストを明らかにする「社会研究の統合」があつてはじめて十分に理解されることが多い、とベラーらは主張します。そうした社会研究の統合のためには、さまざまな学問分野の協力のもと、個別の社会問題に焦点を合わせることが必要となります。

けれども、単に専門化された社会科学の断片的研究をつなぎ合わせるだけでは、まだ足りません。個別専門科学（ディシプリン）の協力を得つつも、社会の全体像追究のためには、個別専門科学の枠を超えた「学問横断的（トランス・ディシプリナリー）」な営みが必要であり、その営みこそが公共哲学なのです。

かくしてベラーたちは、社会のなかで「事実」と「価値」がいかに緊密に融合しているかを認識し、社会学的であると同時に哲学的な問いを発し、倫理的な考察を歴史的な展望で遂行するような課題・使命を公共哲学に課します。つまり、公共哲学は、「社会分析」と同時に社会を構成する人々の「価値意識の考察」が社会研究に不可欠という見解にもとづいて、「事実」の分析にのみ目を向け「価値」の問題を真剣に論じようとしないう社会科学を批判するのです。

ベラーらによれば、公共哲学は、多くの大学で支配的な「社会科学」の分断のみならず、「社会科学」と「人文科学（humanities）」の分断の乗り越えを目指さなければなりません。また研究成果を絶えず「公共の批判や討議」にさらし、一般の人々との対話をフィードバックとするような研究態度も、公共哲学としての社会科学の重要な構成要素となります。そういう態度を保持することによって、社会科学が専門家内部で自己閉塞や自己充足をしたり、独断の落とし穴へ陥つたりする

こののないような学問運動が可能となると彼らは考えたのです。

これは、社会学のみならず、アメリカや日本の社会思想史にも^eゾウケイの深いベラーならではの提案であったといえましょう。

とはいえ、このような革新的な提案が広くインパクトを与え、過度に専門化したアメリカの社会科学界を揺るがしたかどうかと問われるならば、^g筆者の答えは否定的にならざるをえません。

その証拠に、アメリカの経済学界では、効用や利潤の極大化を追求する利己的な個人を理論の核心に置く新古典派が勢力を増しており、その影響は日本を含めた東アジアにまでも及んでいます。また、政治学も、政治哲学が一方に存在するにもかかわらず、自己利益を追求する個人・政党・圧力団体の合理的選択のみに焦点をあわせる合理主義的な色彩がまだまだ優勢なうえに、さらに経済学にならって、利己的な主体間の相互作用にのみ光を当てたゲーム理論を普遍的パラダイム（理論の枠組み）とみなす動向さえみられます。

公共哲学としての社会科学のあり方を変革するというベラーらの提唱は、残念ながら、

ア

といてよいでしょう。

（山脇直司『公共哲学とは何か』、筑摩書房、2004年）

問1 傍線部 a ～ e のカタカナを漢字に直せ。解答は解答题紙の所定欄に読みやすいはっきりにした楷書体で書くこと。解答番号は 18 と 22 。

a ケイシヨウ

18

b ザンシン

19

c ソセイ

20

d マイボツ

21

e ゾウケイ

22

問2 空欄 甲 ・ 乙 に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 23 ・ 24 。

甲

- ① 自業自得 ② 付和雷同 ③ 自己陶醉
④ 我田引水 ⑤ 共存共栄 ⑥ 順風満帆

23

乙

- ① 感情的 ② 主知的 ③ 倫理的
④ 哲学的 ⑤ 教条的 ⑥ 復古的

24

問3 空欄 ア に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- ① アメリカでは合理主義の否定に止まった
- ② アメリカでは普遍的理論とならなかった
- ③ アメリカでは時代遅れだと受け取られた
- ④ アメリカではなく東アジアで評価された
- ⑤ アメリカではあまり成果を上げなかった
- ⑥ アメリカでは少し時代を先取りしすぎた

問4 傍線部 A 「詭弁」の意味として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- ① 好ましくないことや危険なことを故意に口にする弁論
- ② 道理に合わないことを強引に正当化しようとする弁論
- ③ 相手の迷惑を顧みずに必要ないことを長々と話す弁論
- ④ 調子に乗って自分勝手なことを一方的に口にする弁論
- ⑤ 周囲の注目を受けるため故意に大げさな話を説く弁論
- ⑥ 自分の信念を聞き手に伝えるために情熱的に話す弁論

問5 傍線部 B 「人々の価値意識や実践的行為にかかわる学問」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- ① 自己利益の追求に代わる公共性の追求を社会的な至高の価値と捉えることで、既存の科学を超越する学問
- ② 公共精神にもとづく合理性に従って行動する人間の実践的行為を個別専門科学の枠を超えて解明する学問
- ③ 個人の合理的選択にもとづく行動原理の背後に潜む倫理性を追求することで、人間の意識を解明する学問
- ④ 公共性という「価値」に焦点を当てながら、自己抑制して生きる人間の社会的行動規範を分析する学問
- ⑤ 個人主義を超越した超歴史的な社会理念にもとづき、「公共の場」で求められる価値観を分析する学問
- ⑥ 「事実」の分析だけではなく、倫理的な考察を歴史的な展望で遂行するような課題・使命を課された学問

問 6 傍線部 C 「既存の学問体制」に最も当てはまらないものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 人間の社会的絆や連帯の軽視
- ② 「モラル・フィロソフィ」の傘下
- ③ 「専門主義的な社会科学」観
- ④ リベラリズムというイデオロギー
- ⑤ 大学の学部・学科体制の細分化
- ⑥ 「事実」の分析のみに目を向ける

問 7 傍線部 D 「専門化された社会研究の『統合』」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- ① さまざまな社会現象を単一の現象へと統合しながら行う社会研究
- ② 専門化された個々の社会科学を全面的に再構築して行う社会研究
- ③ 個別専門科学の枠を超えた「学問横断的」な営みによる社会研究
- ④ 諸現象を社会全体のコンテクストに昇華させながら行う社会研究
- ⑤ 各専門分野の社会学者たちが互いに分業しながら行う社会研究
- ⑥ 各専門分野の社会学者たちが互いに競争しながら行う社会研究

問 8 傍線部 E 「変数は社会全体のコンテクスト（文脈）に依存しています」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ① 社会研究の対象となる現象は社会全体との関係の中で分析される必要がある。
- ② 社会科学では各学問分野間の相関関係を踏まえて社会を研究する必要がある。
- ③ 自然科学と異なり、社会科学においては変数と変数は相互依存の関係にある。
- ④ 自然科学と異なり、社会科学では複数の変数を一括して分析する必要がある。
- ⑤ 全体の文脈を明らかにする前に、まず対象となる現象を分析する必要がある。
- ⑥ 全体の文脈を明らかにするためには、変数の依存関係を解明する必要がある。

問 9 傍線部 F 「一般の人々との対話をフィードバックとするような研究態度も、公共哲学としての社会科学の重要な構成要素となります」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 専門家ではない一般の人々はリベラリズムというイデオロギーから独立しており、中立的な見地から有益な助言を与えてくれることで社会科学の発展につながるから。
- ② 専門家内部での議論は時に独断に陥ってしまうこともあるが、一般の人々からの意見や批判はそうした独断を防ぎ、社会科学を発展させることにつながるから。
- ③ 専門家ではない一般の人々の研究態度は公共精神に富んでおり、そうした公共精神が公共哲学として社会科学が発展していく上で不可欠なものであるから。
- ④ 産業界とは異なり自己利益の追求から遠いところにいる一般の人々との対話は、専門家が過度な個人主義に陥ることを防ぎ、社会科学を発展させることにつながるから。
- ⑤ 専門家が一般の人々と対話することで、公共哲学における弁証法的発展が得られ、社会科学を発展させることにつながっていくから。
- ⑥ 専門家ではない一般の人々との対話は、社会研究に不可欠な「価値意識の考察」をもたらすことで社会科学を発展させることにつながるから。

問 10 傍線部 G 「筆者の答えは否定的にならざるをえません」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 32。

- ① ベラーたちは公共哲学を掲げて革新的な提案を行つたものの、アメリカの社会科学界では科学者の利己的な研究態度は依然として変わっていないから。
- ② ベラーたちは公共哲学を掲げて革新的な提案を行つたものの、アメリカの社会科学界では自己閉塞や独断に陥る状況には依然として至っていないから。
- ③ ベラーたちは公共哲学を掲げて革新的な提案を行つたものの、アメリカの社会科学界では古典派の経済学の考え方が依然として影響力を持っているから。
- ④ ベラーたちは公共哲学を掲げて革新的な提案を行つたものの、アメリカの社会科学界では経済学の合理的思考法が全ての学問分野に影響を与えているから。
- ⑤ ベラーたちは公共哲学を掲げて革新的な提案を行つたものの、アメリカの社会科学界では合理主義的な考え方が依然として勢力を有しているから。
- ⑥ ベラーたちは公共哲学を掲げて革新的な提案を行つたものの、アメリカの社会科学界ではゲーム理論が全ての学問分野を支配しつつあるから。

問11 本文の内容に合致するものを、次の①～⑨のうちから二つ選べ。ただし、完答しなければ加點しない。解答は解答番号 33 の二ヶ所にマークすること。

- ① ベラーたちは公共哲学の普遍的な理念にもとづき、第二次世界大戦後のアメリカ社会科学界で見られた過度の個人主義化や社会科学の専門科学化に対して批判を展開し、「社会研究の統合」や「価値意識の考察」の重要性を説いた。
- ② 「公共民の道」を喪失したために西洋の自由主義体制が陥った危機の克服を公共哲学に託して、リップマンは一九五五年に『公共の哲学』を上梓したが、同書は古典的な自然法をベースにしていたため十分な影響力を持てぬまま、現代的な意義を失ってしまった。
- ③ ベラーたちはリベラリズムが個人の権利主張を重んじるあまり、人間の社会的絆や連帯を軽視し、社会や人間の荒廃を招くことになったことを批判したが、彼らが過度の個人主義に對置したのは個人の犠牲をいとわぬ「公共の場」としてのコミュニティであった。
- ④ 宗教社会学者のベラーとその仲間たちは、新たな学問的ビジョンを呈示するために「公共哲学としての社会科学」論を提唱しながらアメリカの社会科学界に影響を与えられなかった原因を、自己利益追求の正当化を核とする社会科学の「過度の個人主義化」に求めた。
- ⑤ ベラーは公共性についての思想が著しく貧困化し、社会全体をとらえる視野が失われてしまった根本的原因をアメリカの大学における学部・学科体制の細分化や、専門化された同業者内部での競争や評価に求め、専門化された社会研究の「統合」を緊急の課題とした。
- ⑥ アメリカの政治学にはゲーム理論を普遍的パラダイムとみなす動向さえみられる状況になっているが、この背景にあるのは合理主義的な色彩が強いアメリカの古典派経済学の影響であり、日本を含めた東アジアにまで勢力が及ぶ事態になっている。
- ⑦ 自由民主主義が保障する私有財産権は、土地や天然資源に対する独占的かつ専制的な所有権を与えるものではなく、究極の所有権は所有者ではなく共同体としての人民にあると考える点で、リップマンの公共哲学は共産主義の立場に与するものである。
- ⑧ アメリカの社会科学が専門科学化してしまい、公共性についての思想が失われていったと分析したベラーはさまざまな学問分野が協力して個別の社会問題に焦点を合わせていく「社会研究の統合」が必要であると提唱した。
- ⑨ リップマンとベラーは第二次世界大戦後のアメリカで公共哲学を提唱し、しかもその提案がさほど大きなインパクトを与えなかった点で共通するが、前者は西洋の自由民主主義体制の危機を、後者はアメリカ社会科学界の危機を感じていた点で異なる。